

# 小田原

広

報

まちづくり情報誌

2001 8/1 月号

平成13年8月1日発行  
No.800



## 特集 酒匂川物語

先人の足跡を辿りつつ、  
私たちが  
未来に向けて紡ぎだす  
酒匂川の物語



特別寄稿

# 酒匂川

元気な川で、  
楽しく遊ぶ

フィッシングライター・プロフィッシャーマン

村越 正海



むらこし(むいかい)  
小田原市住、フナ釣り、フライター、海釣り、  
フライング、里山(むらこしの木)、  
ゲーム、磯釣、日本列島の旅行、  
しめ、テレビ「サヘ」で出演、世界が舞台  
として東京赤松、なごみ出演、世界が舞台  
を舞台しながら、釣りに関するののた  
画、編集、撮影、活版屋を営む。

夏になると、酒匂川へアユの及釣りに出かけるのが楽しみである。  
アユという魚はナワバリを持つ習性がある。たつぷり背の付いた石をエサ場として占有しようとするのである。そのナワバリに侵入者のごとくオトリアユを送り込むと、怒ったアユが猛烈と襲いかかってくる。  
喧嘩っ早い習性を利用して、オトリアユにぶら下げたイカリバリで引っ掛けてやろうというのが友釣りの仕組みなのだ。

川底に無造作に転がっている幾多の石をじつくり観察してみるがよい。一見同じように見える石も、白っぽい石、赤っぽい石、茶色、緑色、テラテカ光る黒といった具合に、多種多様であることがよく分かる。

さらに注意深く見てみると、石に付いた苔に、刺さ取ったような痕跡がいく筋も残っている。それが、アユが苔を食んだ跡である。  
釣りを通して川とかかわっていると、川から、実に多くのことを教えられる。広葉樹が川に豊かな栄養を与えてくれること、健康な川を維持するには健康な周辺環境が必要であること、健康な川があればこそ、魚が元気に育つこと、などなど。



魚釣りという遊びはまるで、川の健康診断のようでもあるのだ。

酒匂川はどうか、丹沢湖の上流、世田川、中川川、玄倉川ではヤマメが釣れる。下流の河内川、そして酒匂川本流ではアユが釣れる。中、下流域ではアユのほかに、ハヤ、ヤマメ、コイ、フナ、ヘラブナ、ウナギなどが釣れる。

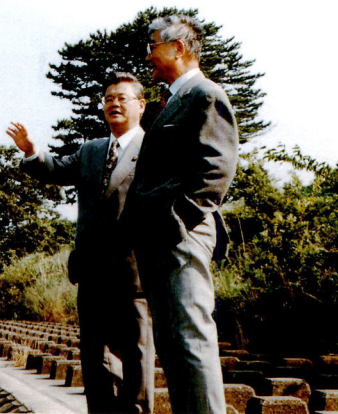
そう、水質こそ少なくなりましたが、酒匂川は元気のた、郷里の川、水清き酒匂川で、いつまでも釣り続けたいものである。

「河川は地球上の水環境のかなめであり、私たちに大きな恵みをもたらしました。この河川の恵みによってはぐくまれた文明が、各地に伝播・融合し、現在の豊かな生活の礎となつていきます」

これは昨年11月に行われた、酒匂川水系保全協議会によるサミット宣言の冒頭部分です。

酒匂川は、私たちにとつてどのような存在なのでしょう。将来どのようにかわつていけばよいのでしょうか。

まずは、サミット宣言のときに基調講演を行った宮村さんと会長の小澤市長の話から、酒匂川の持つ潜在能力と、将来に向けての可能性について探っていきましょう。



## 市長対談

# 母なる川を 未来へ



なぜ、いま酒匂川なのか

市長 昨年のサミット宣言のとき、先生の講演を拝聴いたしました。そのとき、東京にお住まいの先生が、なぜこれほどまでに酒匂川に詳しいのか、と驚きました。

宮村 私は川の専門家ですから当然でしょう。でもそれだけではありません。酒匂川がただ者ではないから魅力を感じたのです。流域の市町村が一体となつてものごとを考えられる川は、神奈川県ではほかにありません。また酒匂川は、

いつの時代までさかのぼっていいのかわからないほど、古くから文化をはぐくんできた歴史のある川です。県内で唯一の城下町があるのも、酒匂川のあるこの地。言わば、酒匂川は神奈川のリーダーのような川なのです。

市長 確かに酒匂川流域は、古く

から関東の中心地でした。考えてみれば、この地域は酒匂川を軸として、太くつながっていたのですね。ですから、地方の時代に突入した今こそ、「酒匂川を軸としたまちづくり」という考え方をしなければなりません。今年、私たち酒匂川水系保全協議会は、「日本水大賞」奨励賞をいただきました。でもこれで満足はしていません。酒匂川には無限の可能性があるので、と気付きました。

宮村 小田原には、酒匂川と早川という二つの大きな川があります。この二つの川は低水流量が全国でもトップクラスです。つまり雨が降らなくても困らないということ。しかも水の質もとてもよい。これは誇れることです。全国でもおそらくこの小田原は特別でしょう。本当に恵まれた環境です。





### 酒匂川と私たち

市長 私はずいぶんのころ、よく酒匂川で泳ぎました。父はアユ釣りがとても好きで、毛バリなどの道具がまるで宝石箱のように思えました。その影響が私も釣りが好きで、よく川に行つたものです。今でこそなかなか釣りをする機会もありませんが、小田原に生まれ、恵まれた環境に暮らしていることを実感したひとときでした。

宮村 うらやましい限りです。しかし一方で、酒匂川は名うての暴れ川という面も持っています。過去にもたびたび氾濫し、自然の厳しさを覚えてきました。

川との共生は、水害との戦いの歴史でもあります。そこでものを言うのが経験です。

市長 小田原の偉人、二宮尊徳先生も、酒匂川の土手に松を植え、まちを氾濫から残度となく救つてくださった。自然



というものは、守ることと手を入れることのバランスが大事、というところですね。私たちが、もう少し酒匂川について勉強をする必要がありそうです。

### 流域のまちづくり、その可能性

市長 酒匂川を取り巻く環境として、県を中心に進めていただいている酒匂連携軸総合整備構想というものがあります。東海道を中心とした南側の生活圏と、東名高速や国道246号など県央を横断す

る北側の生活圏を結び、酒匂川を中心とした広域的な拠点性を高めていくというものです。また、流部の静岡県の市町まで含めた流域4市6町で、自治体・企業が一体となった酒匂川水系保全協議会を組織し、協力しあつて保全に努めています。私は、これから酒匂川を中心とするまちづくりを進めたいと考えており、例えば「酒匂川物語協議会」みたいなものが作れば、などと夢を描いています。

宮村 それは素晴らしい。川は地域のヒーローです。こういう時代



だからこそ、広い視野でしかけを行うことが求められているので「酒匂川物語」という名前も夢を感じさせます。

市長 小田原市では、市の鳥をコアジサシに、そして市の魚をアジとメダカに決定しました。絶滅危惧種の小田原メダカは、市民の皆さんが父さん・お母さんとなって守ってください。コアジサシについても、ボランティアの方の音頭によつて、安心して子育てをしやすい環境が維持されています。また、自治会の皆さんを中心とした、「クリン・さかむ」という一大清掃事業も毎年行つています。これを始めてから、川が本当にきれいになりました。皆さんがこれだけまもつてこられたのも、酒匂川のおかげだと思つています。小田原市民は、本当に酒匂川が好きなのです。

宮村 文明というものは、川を中心にはぐくまれていくものです。酒匂川があつて小田原が発展し、周辺のまちも発展していく。新興地というものは、いつもそのように広がっていくのです。そういう意味で、小田原は神奈川のリーダーとして、大切な役目を担っています。ぜひ、酒匂川を中心とした次世代に訪れるまちづくりを行ってください。

市長 母なる酒匂川の一員として、上下流一体となつて可能性を探っていきたいと思つています。そのために、ぜひ先生の知恵とエネルギーを貸していただきたいと思つています。今日はどうもありがとうございます。



宮村 忠彦

関東学院大学工学部教授。「水害—治水と水防の知恵—」、「四季限田川」など、川にまつわる著書多数。川のエキスパートとして多方面で活躍中。市内校区にある「めだかの学校」建設時の事前調査など、小田原の水環境にも一役買つてくださっている。



小澤 良明 小田原市長

# 酒匂川・時の流れ



悠久の時のかなたから、たゆまず流れ続けてきた酒匂川。そこでは、たくさんの生命とさまざまな文化がはぐくまれてきました。母なる酒匂川の軌跡を、年表でたどってみましょう。

## 縄文時代

現在の関本(南足柄市)付近までが海だった時代、すでに酒匂川は存在し、相模湾は学術的に「酒匂湾」と呼ばれている。

## 弥生時代

酒匂川流域に中里遺跡の集落が栄える。

1180 治受4年

吾妻鏡・源平盛衰記に酒匂川(五子川)として文獻に初出

1277 (建治3年)

「十六夜日記」の作者阿仏尼、京都から箱根を越えて酒匂川を渡り、酒匂に泊まったのち鎌倉へ赴く

1603 (慶長8年)

左岸の用水路として、酒匂堰が完成する(新編相模国風土記編による)

1609 (慶長14年)

大口堰が完成し、酒匂川の乱流が整理される

1645 (正保2年)

小田原城主・稲葉正則が将軍に焼アユを献上(稲葉日記による)

1669 (寛文9年)

酒匂川の川越賃銭が定められる

1674 (延宝2年)

酒匂川に徒漕制(徒歩)がしかれ、渡し船が禁止となる

1707 (宝永4年)

富士山爆発による大量の火山灰により、酒匂川治水のかねめの大口堰が決壊し、大被害となる

1708 (宝永5年)

富士山火山灰により、酒匂川で大洪水

1726 (享保11年)

大岡越前守の命により、田中庄剛が文命堰を完成させる

1736 (元文1年)

酒匂川の引船について、幕府が許可する

1739 (元文4年)

幕府から命を受けた須藤平蔵が、吉田島の酒匂川河川敷あたりで一文銭を鋳造。銭上手と呼ばれる

寛政年間

二宮金次郎、酒匂川土手に200本の松を植えたと伝えられる(現在の坂口堰の松並木)

天保、嘉永

安藤(歌川)広重、東海道の浮世絵を描く

1822 (明治15年)

酒匂橋(木橋)が完成する

1889 (明治22年)

東海道線(現御殿場線)が酒匂川・鮎沢川に沿って開通

1905 (明治38年)

東海道線(現御殿場線)が酒匂川・鮎沢川に沿って開通

美人東海道(岩崎宗純画)





写真：沢沢義一



- 1923(大正12年) 関東大震災により、酒匂川鉄橋の橋台倒れる
- 1932(昭和7年) 足柄平野に初の化学工業会社が進出する
- 1936(昭和11年) 小田原水道が給水を開始
- 1938(昭和13年) 連日の豪雨により大洪水が起り、吉田島堤が決壊する
- 1940(昭和15年) 足柄村・山王屋瀬一色などが合併し、小田原市が誕生する
- 1941(昭和16年) 印刷局の中で最も敷地面積の広い内閣印刷局酒匂工場現在の財務省印刷局小田原工場が、酒匂川沿いに完成する
- 1960(昭和35年) 酒匂川水系保全協議会が設立する
- 1965(昭和40年) 酒匂川が二級河川に指定
- 1966(昭和41年) 右岸に西澤処理区が完成し、小田原市下水道処理が始まる
- 1971(昭和46年) 右岸農業用水の取水口として、稻山頭首工が完成する
- 1972(昭和47年) 集中豪雨により酒匂橋が一部倒壊する
- 1973(昭和48年) 酒匂川の最終的集水地点である小田原市版原に、取水堰が完成する
- 1978(昭和53年) 山北町に三保ダムが完成する
- 1980(平成2年) 第一回小田原酒匂川花火大会が開催される
- 1991(平成3年) 市民による酒匂川一斉清掃アクションさかわが始まる
- 1995(平成7年) コアジサンを市の島に制定
- 1994(平成8年) 小田原市総合文化体育館小田原アリーナが酒匂川沿いにオープンする
- 1998(平成10年) 第53回国民体育大会が開催される(カヌー・ソフトボールなど)
- 2000(平成12年) 酒匂川水系保全協議会が「酒匂川・鮎沢川水系サミット宣言」をする
- 2001(平成13年) メダカ・アジを市の魚に制定する

山北町で行われたカヌー競技



写真：足柄消防組合東酒防署

# 鳥の目から

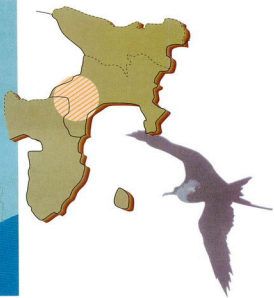
# 爽快！ 空の旅。

緑豊かな足柄平野、背後にそびえる丹沢・相模山嶽、富士山嶽を源流にその中心を悠々と流れる酒匂川。鳥たちの目には、酒匂川はどのように映っているのでしょうか。雲を切つて、大空を自由に飛んで、酒匂川を見下ろしてみましよう。

写真：生命の星・地球博物館



資料：生命の星・地球博物館





ここは酒匂川の源流の一つとされる、富士山麓のわき水。木々に囲まれた源流部を前に「ここに住んで私で3代目ですが、関東大震災でもこの水は濁らなかつたと父から聞いているよ。岩の層の間からわいているからかな。水がきれいだね。」

「この水でいれたお茶もおいしいよ。水温も一年中11度で安定している、冬になれば外気の方が冷たいから、もやが出て幻想的なと勝又さん。この水が小田原まで行くのかと感概深そうでした。」



## 酒匂川の源流部を見守る

勝又松治さん(御殿場市 75歳 農業)



①源流部の一つ(鮎沢川上流)



②榊杉(国指定天然記念物)(中川川)  
名称の由来は、その樹形からとも宝木沢という地名からとも言われています。樹齢約2,000年(推定)、高さ45m、周囲12mの大木。



③丹沢湖(玄倉川・中川川など)  
河内川に設けられたロックフィル式(土質透水壁型)の三保ダムにより生まれた人造湖。



④酒水の滝(全国名水百選・かながわの景勝50選・県指定史跡名勝)  
鎌倉時代に文覚上人が百日の修行をしたとき、不動明王を安置したと伝わる滝不動尊もあります。



⑦文命堤・福沢神社  
宝永4年の富士山噴火が原因で川が氾濫し、足柄平野が荒地と化してしまいました。そこで、小田原藩主大久保氏は自力復興が不可能なため、この領地を幕府に返還しました。幕府は当時、南町奉行の大岡越前守に酒匂川を復興するように命じます。越前守はこの大任を果たすため川崎宿の名主田中丘隅に頼み、享保11年に堤は完成しました。文命堤の名の由来は、昔、洪水に悩まされた中国の禹という国の王が一生涯をかけて黄河の堤防を築いた功績をたたえられて「文命」という称号をもらったという伝説から、丘隅は「文命堤」と名付けられました。横に建つ福沢神社は、堤防の守り神です。

⑤山北駅(酒匂川上流)  
鉄道唱歌の一節「いでてはくぐるトンネルの、前後は山北小山駅、今も忘れぬ鉄橋の下ゆく水のおもしろさ」や、北原白秋の歌にも「鮎根」とともに「山北」は出てきます。  
(16ページ参照)



⑧開成水辺スポーツ公園  
パークゴルフ場、野球場、サッカー場などがあるスポーツ公園。パークゴルフが老若男女に大人気。  
☎83-1331

⑥矢倉沢開所跡(狩川・内川)  
江戸時代に東海道の表開所として完備された箱根の裏開所として設けられました。近くに矢倉沢裏開所跡も残っています。



⑨三角土手の水神  
酒匂川と川音川の合流地点の堤防は「三角土手」と呼ばれています。  
松田山からの眺め。





**アメリカヒドリ**  
アリューシャン列島や  
北米から、冬場にも水  
草が豊富なところに渡  
ってきます。  
飯倉取水堰でヒドリガ  
モ群中に姿を見ることが  
できます。



**ミサゴ**

一年中飯倉取水堰周辺  
で見ることができま  
す。単独の場合がほと  
んどで、水面上空をよく  
パトロールしていて、  
大型の魚を取ります。



⑧酒匂川青少年サイクリングコース  
(小田原市～開成町～南足柄市)



⑨尊徳記念館・生家  
二宮尊徳(金次郎)の生家。その偉  
大な業績は隣にある記念館で学ぶ  
ことができます。



⑩相山頭首工(取水施設)  
頭首工の完成により酒匂川の水が  
農業者をはじめとする地域住民の  
生活を潤すこととなりました。



⑪飯倉取水堰  
酒匂川の水は小田原市内だけでな  
く、ここから横浜市や川崎市にも  
送られています。



⑫小田原アリーナ  
小田原市の総合文化体育館。特徴  
的な外観は小田原のランドマーク  
です。



⑬松並木  
二宮尊徳が、酒匂川の氾濫を防ぐ  
ために植えたと伝えられています。  
松が今でも勇壮な景観を見せてい  
ます。

飯泉取水堰付近で  
見られる鳥たち

コアジサシ

小田原市の鳥。オーストラリアからの渡り鳥。飯泉取水堰付近から飯沼橋のあたりに営巣します。



撮影すべて：室伏友三

タゲリ

箱根から飯泉橋の周辺に、秋から冬にかけて、中国などの大陸から渡ってきます。田んぼの土をけっ飛ばして虫をついばむことから、この名前と呼ばれます。飛来する数は年により増減があります。



カムリカイツブ

カイツブリで最大。飯泉取水堰付近で何羽か見られることもありますが。カムチャツカ、ア、青森県などから1月下旬ごろから1月、翌3月ごろまで、時には夏も観察できます。

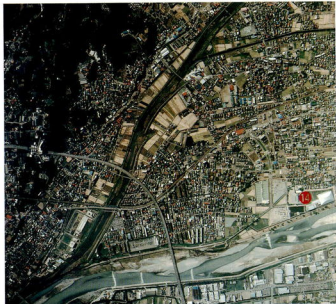


鳥類を見守る人

室伏友三さん

(湯河原中学校教諭、  
財団法人鳥類保護連盟神奈川県支部長)

「県内でも酒匂川ほどのところはありませぬよ。日本には約630種の鳥類が生息したり渡って来たりしますが、そのうち300種が酒匂川にかかわっているのです。ただ残念なことに、数が減っている鳥もいます。原因はいくつかあると思われるのですが、その一つは、ルールを守らない人間がいるということと、室伏さん。「川辺でパーベキューをしたあとごみを放置したまま帰る人もいので、生ごみを放置すると水は汚れ、野良猫などがやってきます。すると鳥の卵やヒナも見つけられて食べられてしまうんです。水辺を控えた場所はずべての動物のエネルギー充足と休息の場。大切にしていってほしい」と熱く語ってくれました。



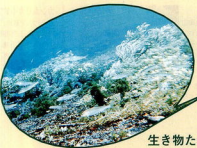
16 飯泉取水堰付近(コアジサシの郷) このあたりは、多くの水鳥のいこいと安らぎの場所です。



17 酒匂川左岸サイクリング場



18 渡し場跡地碑 安藤(歌川)広重の浮世絵にもある酒匂川の渡し。今は横にある勾橋で、簡単に川を渡ることができます。



# 魚の目から われら 酒匂川住民！



生き物たちにとって酒匂川はどのようなすみかなのでしょう。

酒匂川の魚たちは、何をみているのでしょうか。

魚の目に映る、酒匂川に息づく生き物を紹介します。



シマドジョウ さらさらした砂地がお気に入り。



メダカ 共存じ「市の魚」。今では全国的にも珍しく、「絶滅危惧種」に指定されています。

ナマス 子どものころにはヒゲが6本。成長するとヒゲが4本になります。

## 魚たちの 最後のとりで

淡水魚は関東と関西で見られる種類がちがいます。また関東は、魚の種類が少ないのですが、特に酒匂川には限られた魚しかいません。

酒匂川は水がきれいで、水量も豊富なのですが、勾配がきつく、急流であることや、周辺の田んぼ地帯に池やたまりがないといった河川状態が、魚の種類を限られたものにしていくと思います。

しかし、メダカやナマス、シマドジョウなどといった、県内では数少なくなってしまう貴重な魚が息づいていることも見逃せません。魚たちにとって、酒匂川は最後のとりでといったところでしょうか。

でも、酒匂川が、魚たちにとって最高の状態であるわけはありません。一度いなくなってしまう川では、淡水魚が自然に復活することがないのです。この貴重な魚たちを、いつまで酒匂川で見ることができるようを守りたいものです。



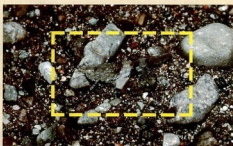
瀬能 宏さん  
(東立生命の星・地球博物館学芸員)

すべて写真提供：生命の星・地球博物館  
撮影：瀬能宏





ミヤマシジミ  
県内での最後の生息地酒匂川でも姿を消してしまいました。



カワラバッタ 県内では酒匂川でしか見られなくなりました。

## 人に良い川は、虫にとってはつらい川

酒匂川の水はとてもきれいです。しかし、酒匂川も全国的な例にもれず、堤防や護岸の整備が進み、虫たちにとっては、住みやすい川であるとは言えません。

昔の川は、季節や雨量によって流れを変えてきました。その自然が生んだ蛇行によって、川にたまりができて、土砂が運ばれ草場ができました。虫たちは、そこで生まれ、育ってきたのです。

しかし今は、どの川でも人の生活にやさしくとのことから、いつでも流れが一定となり、同じ軌道を描いています。その結果、河原は安定し、変化の乏しい環境となりました。せめて、堤防の間隔を広くとり、この中で川が蛇行できれば、酒匂川でも多くの虫たちが生きのびたのではないのでしょうか。

かろうじて、県内では酒匂川でしか見られない虫もいます。その虫たちを見るたびに、私たち人間へのメッセージが聞こえてくるのは私だけでしょうか。



高桑 正敏さん  
(県立生命の星・地球博物館学芸員)

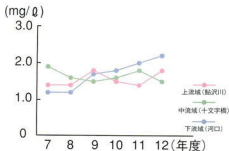
すべて写真提供：生命の星・地球博物館  
撮影：高桑正敏

### データに見る酒匂川 その1

## 水質調査

(年4回実施・酒匂川水系保全協議会)  
カドミウムなどの健康項目(有害物質)と河川の汚濁指標となる生物科学的酸素要求量(BOD)は環境基準を満たしています。

酒匂川本川におけるBODの経年変化(年平均値)



## 酒匂川・鮎沢川水系水生動物調査



魚類

四十八瀬川でホトケドジョウが採取されました。県内では生息場所が減少しており、希少魚に位置づけられています。(生息魚)

タモロコ・オイカワ・ドジョウ・ニジマス・ヤマメ・アマゴ・カジカ・オオヨシノボリ・ルリヨシノボリ



底生動物

トビイロカゲロウほかカゲロウ12種類、オニヤンマ、ヘビトンボ、ミスムシ、カワニナ、シマイシビル



(平成 12年度)



## ●人の目から●

# 瞳に映る 酒匂川

人と川とのかかわりの中で



人は川と戦い、川で遊び、川で暮らしをたて、そして川を支えてきました。川が土地を豊かにしてきたように、人は川とかかわりながら、地域を発展させてきました。酒匂川にかかわる人々の営みから、酒匂川のどんな姿が浮かび上がり、どんな可能性が見えてくるでしょう。

「小田原」は、暴れ川の異名を持つ酒匂川の氾濫原を開拓してつくったことから、「小さな水田の原」という地名が付けられたと言われています。

酒匂川を巡る多くの人の努力と汗によって、今の私たちの生活があるのです。

### 堤防のクロマツ

二宮尊徳(金次郎)  
翁はすごい!

「二宮先生は、酒匂川を愛し、そして理解し、地域のためにその自然を生かしました」と尊徳記念館館長の松岡謙良さんは、郷土の偉人をこうたたえています。



二宮尊徳

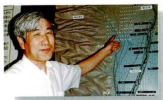
土地勘があるというのか、未来が見えたというのか、現在でも感心するほどの的確な指導ぶりには驚きます。今の小田原があるのは、「二宮先生のおかげじゃないですか」と、酒匂川にまつわる偉業を紹介してくれました。

### 小田原のシンボル

尊徳は、昔から暴れ川として氾濫を繰り返してきた酒匂川の堤防に、成長が早くて大きく根を張るクロマツを植えました。現存する松は2代目だろうと言われていますが、碑の近くのもは木の周囲が3mを越えています。このクロマツは、市の木として小田原のシンボルになっています。

### データに見る酒匂川 その2

クロマツ本数  
河口～報徳橋(7km)……………397本  
報徳橋～大口橋(14.5km)…………834本



尊徳記念館館長 松岡 謙良さん

尊徳の松並木の記念碑  
酒匂川堤防の小さな公園に、尊徳(金次郎)が植えた松並木の記念碑があります。「先生百年ノ頃、松田二百本ヲ植ニテシテソト付フル地口堤シテ、推挙ノ徳ヲ高キ先生ノ顕示ヲ見ルノ心也云々」  
〔注1〕推挙…二宮尊徳は、言い争うのは鳥獸の道、推し譲るのが人間だけにできる人道の生活である、と説いています。

(注2)嫩芽・新芽



桜井村青年団榎山支部建立

報徳堀  
天保11年(1840)、尊徳は曾比村(現在の吾田)の村おしをされていました。当時、村人の多くが多額の借金を抱え込んで、やる気を出し、田舎を離れて出ていきました。これを聞いた尊徳は「返田は地下水がわき出るから原因だから、堀を掘って地下水を汲まなければ良い田にはならないでしょう」と指導し、村人たちはこれに従いました。すると、周囲の水田までもが水が引けて良田になり、年貢を納めても余りある収穫ができたと言います。人々を導く尊徳の徳をたたえ、報徳堀と名付けられました。





前組合長・東柏山  
木村四郎さん(72歳)



前組合長・曾比  
鋤持昭二さん(74歳)



組合長  
片山幸男さん(60歳)

写真2枚 登木良一郎



安戸堤堤



御殿場線六軒屋鉄橋



柏山頭首工の完成の碑

## 柏山頭首工

### 酒匂川が吹き込んだ農業の命

地域の農民は、酒匂川の洪水や濁水に悩まされ、農業用の水の確保に大変な苦勞をしてきました。昭和46年に地域の念願がかない、取水施設の柏山頭首工が完成したことにやり、足柄平野が県内でも屈指の穀倉地帯として一層の脚光を浴びてきました。

### 酒匂川との戦い

「私たちの組合の歴史は、酒匂川の水防とかがい用水対策との戦いでした。酒匂川は昔から暴れ川として、田畑や家畜、そして人間に害を及ぼしてきました。今、全国的にも「うまい」と評判の、良い米が取れるのも、先人たちの血のにじむような努力があつたことなんです」と酒匂川水系農業用水取組組長の片山さん。

「私の若いころの酒匂川の暴れようはすごかった。川が大雨のたびに氾濫し、木流がうなりをあげて動きました。その度に、元の流れに戻す

ため、スコップとかごをかき、命を張って玉石をかきだしました。戦後に酒匂川は二級河川となり、県の管理となりましたが、それ以前は各地域の責任において災害に立ち向かっていたのです。ブルドーザーがない時代、そりやもろ、住民のがんばりよ

うは大変なものでした。今考えれば、そうやって地域のさすなが育つたんです」と前副組合長の木村さん。

「全国的にも、水害対策として堤防にあれば松が植わっているのは珍しいです。戦前は、洪水のときは、堤防の松を切り倒して三つ杵を作りました」と前組合長の親持さん。

その後、農業関係者や農協をはじめ、河川漁業組合や治岸土改良区などの多くの方の努力や、国・県の強力な一助力によって柏山頭首工は完成します。

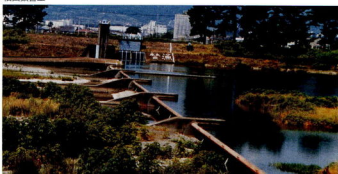
「頭首工の完成時には、この地域に大きな歓声があがりました。今や酒匂川沿岸の大動脈として、きれいな酒匂川の水は、農業者をはじめ地域住民の生活用水としても役に立っています」と片山さんが結びました。

(注) 組み上げた杵の中に蛇かごを並べ、これに適当な玉石を詰めて、水勢の当たる、いわゆる「あて場」に備える工法。急流の酒匂川では、一番効果のある工法と言われていました。流れが変わるため、右岸と左岸では組み方が逆となります。



三つ杵

柏山頭首工



### データに見る酒匂川 その3

#### 柏山頭首工の概要

事業費 5億2,177万6千円(国65%・県35%)

工期 昭和43年度着工、昭和46年度完成

受益面積 294.9ヘクタール

# 幸せ贈って半世紀！

今年で酒匂川漁業協同組合も50年を迎えます。「酒匂川の釣り人が幸せな気持ちで帰路につけることが、私たちの使命だと思っています。清流の流れ、河原の風、野鳥のさえずり、絵景がきのように広がります。景色はすべてが一級品です。あとは釣果です。すよね」と笑う組合長の名坂さん。

「だから、多くの釣り人に楽しんでいただけるように、魚の放流か所を増やすなど工夫しています」と、名坂さんはもてなしの心で酒匂川を支えています。

◎酒匂川漁業協同組合

☎374277

酒匂川漁業協同組合長  
名坂 四良さん



アユの放流



データを見る酒匂川 その4  
平成13年度酒匂川への放流数(単位:尾)

アユ	1,600,000
ヤマメ	10,000
コイ	7,000
フナ	5,000
ウナギ	2,500
ニジマス	2,000
イワナ	2,000

# 幻の「あゆ寿司」を復活させる

「あゆ寿司」の復活が夢でした。内藤さんは、御殿場線が東海道本線だった時代に名物駅弁として名をはせた、幻の

「あゆ寿司」の復活に情熱を傾けてきました。

「当時店で働いていた方を講師に招いて、商工会の婦人部で作り方を直々に教わりました。アユの大きさによって、酢や塩の加減を微妙に変えるのに手がかかりました。素材にも十分こだわって、酒匂川でとれたアユと酒匂川の水で作ったお米しか使っていません」。予約での販売のみになりましたが、復活した「あゆ寿司」は購入された方にも好評とのこと。



山北町商工会副会長  
内藤 和江さん



山北

早やも山北

チラチラ、燈、

鮎は鮎鮎、

溪の月。

北原白秋

「あゆ寿司」が、まちの特産品となり、地域の活性化に役立てばうれしいうす」と、今にも泳ぎ出しそうな「あゆ寿司」を前に話してくれました。

◎山北町観光協会

☎752717





# 未来へ大きな財産を 引き継ぎたい

「川らしい川。これが酒匂川です。私も幼いころから、ここで遊んできました。四季を感じる事ができるのも大きな魅力です」と小田原土木事務所の柚木さん。

小田原土木事務所  
河川砂防第一課 課長補佐  
柚木 由治郎さん



柚木さんの仕事は、小田原・箱根・湯河原・真鶴におよぶ、県が所管する二級河川・海岸の工事や維持などです。

「酒匂川は私のふるさとの川です。今の仕事にやりがいを感じます。神奈川県は小田原市、そして治川自治体の協力により、昭和62年3月に酒匂川河川環境管理の基本計画を策定し、自然にやさしい川づく

# 家族そろって 楽しんでいきます

酒匂川左岸サイクリング場

「風がすこく気持ちいい。ペダルをこぐとすずしくなるよ。」と乗り自転車も最高！とれんげ幼稚園に通う香純ちゃん。

「香純が、お父さんと一生懸命練習して、初めて自転車に乗れたのが、このサイクリング場で」と由香さん。  
「近所なので、よく来ま

中島ファミリィ

(南鴨宮)



中島剛さん・由香さん・香純ちゃん(5歳)・力弥くん(2歳)

すよ。酒匂川の眺めと、土手に咲く四季折々の花で休日にはフレッツシユしています」と剛さん。  
すてきな笑顔が印象的でした。

## コラム 1

# 酒匂川の未来に期待！

全国各地で小田原の情報や魅力を発信してくださっている「小田原評定衆」の皆さん。「酒匂川」の未来にエールを送ってくれました。

市民交流課 ☎33-1706

### ●岩田 静夫さん

南足柄市在住、漁業情報サービスセンター勤務

相模湾の定置網に大被害を与える急潮予報研究などにかかわるとともに、市内漁業関係者からの相談にも気軽に対応する岩田さん。「新鮮でおいしくて安全な魚介類を提供できるのは、相模湾の環境が保全されているあかしです。湾の生態系に深くかかわっている酒匂川などを含めた総合的な自然環境の保護とその活用(沿岸域管理)で、全国の先導的な役割を果たして欲しいですね」と期待を寄せています。



### ●清水 直樹さん

群馬県在住、新聞社勤務

奥様が小田原出身で、小田原を訪れるたびに、新しい魅力を発見するという清水さん。「小田原には海もあれば山も川もあります。それぞれが人の心を和ませてくれる、やさしさを持っています。そして、十分に市民生活に溶け込み、活力の源になっているようですね。四季折々の表情も、またすばらしいです。酒匂川をはじめ、その貴重な財産の保全を第一に考えた施策に期待しています」と小田原に注目しています。



### ●飯田 訓正さん

横浜市在住、慶應義塾大学理工学部教授

「小田原のご縁は、低公害車・電気自動車の導入の折に、お手伝いさせていただいたのが始まりです」という飯田さんは、近未来型エンジン開発などを通じて、エネルギー・環境・経済の三者のバランスのとれた社会づくりを指向しています。「今後、地域の環境を地域の住民で守り育て、感謝する、そんなモデル都市として発展して欲しいですね。美しい酒匂川をいつまでも守ってください」。



小田原の水道水は本当においしい。泥臭さも薬臭さもなく、夏でも井戸水のように冷たい。ほかの場所で生活してみると、そのありがたさが身にしみる。蛇口をひねればあたりまえのようにほとばしる水。この水はどこからどんなふうにしてやって来るのだろうか？



吉田幸次

飯泉取水堰(いづみあしすいせき)  
酒匂川河口から2.3km上流に設置された長さ342.5mの全面複備堰。左岸の取水口から1日最大180万9千1の湧水を取水し、ポンプで揚水して送水しています。

# ●人の目から● 魚と野鳥の集う命の源

## 飯泉取水施設潜入レポート

広報レポート | 中川則子さん(板橋)

酒匂川から水を取り入れているというこの施設は、これまで幾度となく素通りしている飯泉にあった。神奈川県内広域水道企業団の取水施設である。ここで取水された水の一部は小田原市の施設である高田浄水場へ送られ、市内で使用される水道水へも生活用水と。あとは県下の各市へも生活用水として供給されている。広大な酒匂川流域のほんの一つの堰にすぎないが、ここから毎日浄水場に送られている膨大な量の水(横浜スタジアムの広さで、高さ120m分)は、どれだけの人命を守っているのか、その重責は計り知れない。施設は、地震・水害といった天災にも十分に耐えうる設備を持ち、文字通り24時間体制で職員が命の水の監視にあたっている。

一番の心配事は、事故などによる油の流出だと。最新技術の導

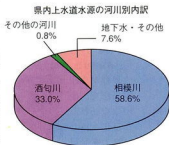


中川 則子さん

入もさることながら、上流の川や水路に異変がないかを常に確認する必要不可欠なものとなっている。そしてやはり河原のこみみのポイントで、憂慮すべき問題であり、ここでのごみ処理は年間100tにもなるという。自らの命のもとをおびやかしているのもまた人間であるのだ。酒匂川を汚すことは、巡り巡って自分たちの水道水を濁らせるということ。私たちが肝に銘じなければならぬのである。



神奈川県内広域水道企業団  
飯泉取水管理事務所 所長補佐 加藤史夫さん



地がよさそうだ。さわやかな風に吹かれ、取水堰からの眺めを楽しませていたかと、せきとめられた水辺には、のんびり泳ぐ巨大なコイ。中州にはたぐささんの草が生え、幾種類もの野鳥たちが住んでいる。新幹線の音などお構いなしのように、優雅にはたいている。彼らの命の源となっているのは酒匂川の美しい水。その水を私たちがもたした生活の糧としているのだ。彼らのやさしい姿が、この川の安全性を保證してくれているようにも見える。

「ルールを守ればいつまでも一緒に暮らせるよ。」  
人間の都合で作った取水堰の住人たちの声が、聞こえたような気がした。

コラム 3

小田原の源水  
「水のきらめき」2リットルペットボトル

9月1日～10月31日  
(防災の日)

新発売

大自然に連なる箱根山系の地下水脈からくみ上げた天然水を加熱殺菌処理したナチュラルミネラルウォーターです。今回新しくペットボトルの販売が決まりました。

水の缶詰も引き続き販売しています。

水道局営業課

☎41-1202



- 酒匂川流域下水道右岸処理場(処理区域・小田原市・南足柄市・山北町・開成町)
- 青町終末処理場(処理区域・小田原市)
- 酒匂川流域下水道右岸処理場(処理区域・小田原市・南足柄市・山北町・開成町)
- 青町終末処理場(処理区域・小田原市)

データに見る酒匂川 その5  
酒匂川流域下水道管及状況

処理人口 72,200人  
処理戸数 30,221戸  
処理面積 1,049ヘクタール  
年間総処理水量 13,528t

ここにも酒匂川が

昨年、市制60周年を記念して、「おだわらこどもかるた」が発行されました。このかるたは保育園・幼稚園・小学校などに配布され、子どもたちは遊びの中から小田原の良さを学んでいます。また、公立保育園では「かるた」を展示し、公開しています。

発行者:「おだわらこどもかるた」

制作委員会

(代表 都築融光さん)

絵札: 創作木版画家

佐藤北久山さん



コラム 2

なぜ、小田原の水はおいしいの？

酒匂川の上流には、水道水源林として広葉樹や針葉樹が広範囲に植林されています。水道水源林は「緑のダム」や「天然の浄水場」として、おいしい水の供給源なのです。

雨水が森林に染み込むうちに、空気中のちりや汚れが取り除かれ、ミネラルが溶け込みます。小田原市水道局では、このようにミネラル分のあるおいしい水を水道水にして届けています。



コラム 4

影の立て役者  
それは、私です！



酒匂川の水はきれいです。実は、そこで活躍しているのが流域下水道なのです。左岸処理場が昭和55年、右岸処理場が平成9年に処理を始め、今では流域の3市6町の生活排水などを浄化しています。酒匂川流域下水道左岸処理場(処理区域・小田原市・秦野市・二宮町・中井町・大井町・松田町)

○酒匂川の河口

ここはマリンスポーツのメッカ。サーフアワーや水上ジェットスキーヤーたちが集います。

○酒匂川左岸サイクリングコース  
1周1,620mのコース内で自由に遊べます。無料貸し出し自転車が大人数。ウィリー・ブレイク・サイドカーなどの変わったものに挑戦しましょう。  
●公益事業協会 ☎23 2 4 6 5

○酒匂川青少年サイクリングコース  
小田原市(開成町、南足柄市)まで約9km。アスファルト舗装しているので軽快なサイクリングが楽しめます。



川で遊ぼう

酒匂川には、魅力のスポットがいっぱいあります。

○城下町おだわら  
ツーデーマーチ

毎年秋には、全国から小田原ファンのウォーカーたちが集います。酒匂川ファンには「尊徳(二宮全次郎)・富士見コース」がおすすりめ。  
●実行委員会 ☎38 1 1 9 8

11月  
17日(土)・18日(日)  
開催



美



湘戸 進



小室 誠二



平井古宜

花

雪

草門 守



山紫水明の小田原が誇る酒匂川の美しさを一堪能ください。

# 酒匂川フォトギャラリー

今回の号では、過去に酒匂川写真コンクールに応募いただいた方の作品を紹介しています。



が目印です。撮影者敬称略。表紙の写真は、小室誠二・山崎道夫・星野慎平





## 酒匂川写真コンクール

母なる川・酒匂川をテーマとした写真を募集中!

あなたの写真で川にメッセージを送りませんか。

8月24日(金)までに、サービス版程度のサイズのプリントとフィルムを提出してください。

環境保全課(酒匂川水保全協議会事務局)

☎33-1481



多田 英志



田中 孝佳



小室 誠二

# 遊



### 酒匂川を取材して

お陰様を持ちまして、広報おだからは800号となりました。

今回の特集「酒匂川物語」はいかがでしたか。

ある休日、日の出とともに、編集部一同は四輪駆動の自動車に乗り込んで、酒匂川の源流部に向かいました。梅雨時にもかかわらず、午前中から気温30度を越える暑い暑い日でした。汗をふきふき取材を続け、河口についたときには、いつの間にか日も暮れかけていました。

取材が進むうちに、全員が酒匂川の魅力にとりつかれていました。取材写真や知ったばかりの知識を披露する者など、会話はすべて酒匂川一色。紙面の都合で全部を紹介できないのが残念です。

この特集に関するご意見や酒匂川情報などがありましたら、ぜひお寄せください。

広報広聴室 ☎33 1 2 2 6 1

# 母なる 酒匂川

mother  
the  
Sakawa

生命の星・地球博物館の学芸員が、さまざまな視点から酒匂川の魅力 را リレー方式で紹介します。

## 小田原と酒匂川

今永 勇 (学芸部長・理学博士)

す。フィリピン海プレートに乗った

伊豆半島の地塊は、北米プレートに

乗る丹沢山地に衝突していると考え

られています。その衝突している境

界が、国府津―松田断層、丹沢山地

の南部を東西に伸びる神縄断層、伊

豆半島の付け根を通過して駿河トラフ

にのびる構造線であると考えられて

います。酒匂川の上流は、丹沢山地

地が隆起し始め、海上に出ると

同時に浸食が始まり、丹沢の南側に

流れる川ができたと考えられます。

そのころは、丹沢と伊豆の間に海峽

があり、海峽に砂礫が堆積していま

した。大磯丘陵は、まだありません

でした。やがて海峽は埋まり、およ

そ100万年前に、伊豆半島の地塊

と丹沢地塊が陸続きになりました。

西丹沢からの流れは駿河湾側に流

れ、東丹沢からの流れは相模湾に注

いでいたと考えられます。およそ50

万年前に伊豆半島の北東部の箱根火

山が活動を始めました。成層火山か

ら始まり、大噴火でカルデラができ、

さらに神山・駒ヶ岳・二子山などが

できました。5万年前より以前に、

箱根火山の裾野で国府津―松田断層

が活動を始め、箱根火山の側が沈降

して、大磯丘陵側が隆起を続けました。

山地から運び出された土砂は、沈降

する箱根火山側を埋め立てて、足柄

平野ができていったのです。

さて、酒匂川は傾斜が急で、た

びたび洪水を起こす流れ川で、

したが、明治以来、砂防工事が進み、

おとなしい川に変わっています。河

口から海に流れ出した土砂礫は、沿岸

流によって岸に沿って横に運ばれま

す。また暴浪のときには、岸から沖

へ運ばれ、さらに深海に運ばれてい

きます。砂浜を維持するためには、

河川から砂礫が運ばれ、絶えず浜が

補充されていなければならないので

すが、今は砂礫が上流部にせき止め

られて河口まで運ばれなくなってい

ます。洪水防止の反面、河口から流

れ出る砂礫の量が減少し、西湘海岸

の砂浜の後退が進んでいます。

海岸で、砂を握りしめて、酒匂川

の上流に思いをはせてみると、自然

の力を感ずることができるとも申し

ません。

く川の流れは絶えずしてしか  
も元の水にあらず」とは、方  
大記の一節ですが、酒匂川の清流は、  
悠久の昔よりたゆまず流れ続け、小  
田原市の中央部を通過して相模湾に注  
いでいます。酒匂川は、善後江、大  
変穏やかな流れですが、ひとたび大  
雨が降ると濁流となり、上流から土  
砂を運び出します。足柄平野は、洪  
水のたびに酒匂川の上流から運ばれ  
た砂や礫が、積み重なってできた平  
野です。平野は、長さおよそ12km、  
幅およそ4kmで、東側は国府津、  
松田断層を境として大磯丘陵に接  
し、西側は、箱根火山の裾野の台地  
に接しています。足柄平野は、酒匂  
川のほかに、東側に森戸川が、西側  
に箕川・山王川が流れ、地下水も豊  
富です。

今 回は、シリーズの初回であ  
るため、酒匂川を地球規模  
の視点で眺めてみたいと思います。  
酒匂川は、プレートテクトニクス説  
というプレートの境界を流れる川で  
す。日本付近には、4枚のプレート  
がありますが、小田原市は、海のプ  
レートであるフィリピン海プレート  
と陸のプレートである北米プレート  
の境界が通る特異な位置にありま

好評開催中！  
「神奈川県植物志2001」  
刊行記念特別展  
神奈川の植物その10余年の変化  
9月16日(日)まで  
県立生命の星・地球博物館  
☎21-1515



日本周辺のプレート境界図

河口付近





# 食道楽

だいたい、アユの味は、川によって違う。多摩川のアユより相模川が上等だし、酒匂川がより勝れる。また、同じ川でも場所によって味が違う。

(略)

その理由は、アユの食物となる硅藻の種類が違う、またその多少にもよる。硅藻のことに俗にアカ力というが、一番上等なのは、ごく清流に大きなプラ岩がたくさんあって、岩の質が硬く緻密で滑らかだと、青アカという極く細かい柔かい硅藻がつく。

(略)

その上等な青アカを、たくさん食べているアユがおいしい。

「また普通法によって味は違い、ます」

網でとると、アユが煩悶して川底の小砂をのむので味が悪く、引掛けるのは、飢えたアユでもなんでもとるから、味がよくない。

(略)

いちばんいいのは友釣りで漁ったので、活きたアユを水の中へ泳がせると、他のアユが追いかけてきて釣にかかると。それはアユが、十分にエサを食べて尻地よく遊んでいる時でない、決して友を遊わない。つまり味のよくなったアユばかりが釣れる。飢えたアユは決してとれない。友釣りのアユの腹には、硅藻がたくさん入っている。

(略)

酒匂川のは、色が青く脂肪分が少ないから、スシにしたり酢の物料理に向き、ことに塩がよく、他の料理には、早川のが味がいい。



明治時代に活躍した小説家の村井弦斎は、長編小説『日の出島』で人気を博しましたが、食通、釣り通としても知られていました。弦斎は、1901年(明治34年)春に小田原にやってきました。住まいは、十字三丁目、現南町一丁目の西海子通りの近くで、明治35年の大海嘯で被害を受け、明治37年平塚に転居するまでここで暮らしました。『食道楽』は、1902年(明治35年)から2年間、『郵便報知新聞』に実用的な家庭読物として連載され、大好評を博しました。

料理に関してだけでなく、婦人の学問のことや夫婦の愛情や家庭の幸福などがテーマとなることもありましたが、また、食生活をはじめ思想や生活様式などについても、西欧の文化を我が物にしようとしている様子うかがえ、弦斎の米國留學経験や交友関係、そして小田原移住直前の尾崎多喜子との結婚などの影響を感じ取ることができまます。

事実、弦斎自身が『食道楽』のはしがきに、『食道楽趣味に傾倒したのは、多喜子の力による』と書いているように、夫人の影響は大きかったでしょう。

『食道楽』は、新聞への連載に続いて、『春の巻』『夏の巻』『秋の巻』『冬の巻』の単行本となって出版され、版を重ねて、弦斎の小田原時代の代表作となりました。

『食道楽』中の「鮎の味」友釣りのアユでは、アユの味が、川・漁法・料理法によって違うこと、特に酒匂川のアユは味が優れていること、脂肪が少ないのですしや酢の物に適していることなどが書かれています。

# 輝く 小田原人

ふるさとを掘り続ける～『わたしの小田原』発刊

## 新井 恵美子 さん

ノンフィクション作家



昭和14年東京生まれ、1963年随筆サンケイ賞受賞、1986年「サエ子とハマッ子」で横浜市福祉産話大賞受賞、1996年「ミラクルの夜明け」で第15回横浜ノンフィクション部門優秀賞、「香る」で第1回「福井県」ドキュメント賞、「懐かしい家」で「平凡」を創刊した友成隆之の話題ほか、小田原市教育委員会、日本文学協会会員、日本ペンクラブ会員、小田原評定委員

懐かしい風景の細かな描写で郷愁を誘う新井さんのエッセイ。広報おだわら平成11年2月1日号に寄稿していただいた『白い道』は反響も大きかったので、覚えていた方も多いのではないだろうか。今回刊行された『わたしの小田原』は、『かながわ風土記』に連載した作品の中から抜粋したエッセイ集である。「小田原の人に読んでほしいです。小田原の人だけに、と言いたくくらいです」。

「私のふるさとのことを書きたいんです」と言って始めた『かながわ風土記』の連載は、すでに18年続いている。

「きっかけは父の最期の言葉です。ひとこと言うのもやっと、という状態だったのですが、私を枕元と呼んで、「ふるさとを掘りなさい。きっと鉱脈が見つかるよ」と。

新井さんにとって小田原は、6歳から22歳までの多感な時期を過ごした場所である。

戦争で、東京から父の実家の前川村(小田原市前川)に来て、結婚して東京に出るまで住んでいました。離れているからこそわかる良さがあるし、私にとってふるさとと言えば小田原なんです。父はふるさとが大好きで、いつもふるさとの話をしていました。『血につながるふるさと 心

につながるふるさと 言葉につながるふるさと』という息崎藤村の言葉がありますが、私と小田原はまさに血でつながっているようなのです。

小さいころから文を書くのが好きだったという新井さんは、小学校5年生のときからずっと日記をつけている。

「でも内容は、近所で起こった大人同士のいざごごとか、おじいさんの法事にだれとだれが来て全部で何人だったとか、小学生らしくないことばかり。先生は喜ばせませんでしたねえ(笑)。ずっと続けているのは、過去が消えていってしまうのがいやだから。それに、作り物の世界より現実の世界の方が、よっぽど不思議でおもしろいです?」

これは、現在ノンフィクションという

ジャンルにこだわる原点でもある。題材も第二次世界大戦にこだわるのも、戦争のことを話せる人がいるうちに、事実を事実として残しておきたいと思うからである。

「私にしか書けないものもあるのかな」と思います。特に小田原には、いっぱい宝物が埋まっていると思うんです。それも、掘っても掘ってもわいてくる泉のように。小田原を掘ることは、私にとって自分自身を掘ることに、家族を掘ることに。書こうと思って調べて見えないことが見えてきますし、話はずきないです(笑)。

自分がやりたいと思えることがあって幸せだと笑顔で話す新井さん。鉱脈を探す日々を、楽しんでいる。

## 再発見! おだわら

### 唐沢海岸のガードレール



とてもうれしく、また懐かしく拝見いたしました。写真なんでもってに撮れない時代ですので、一枚一枚思い出が詰まっていますが、同じ風景を見て小宮さんが懐かしく思っていることに感激しています。ほかの方のお話、ぜひうかがいたいですね。(新井さん談・写真提供)

新井さんの「白い道」が広報おだわらに掲載されたときにお借りした唐沢のガードレールの写真。これを見た小田原・城下町大使で俳優の小宮孝幸さんから、こんなメールをいただいた。



写真：小宮孝幸

広報おだわらに載っていた、作家の新井恵美子さんの写真を見てちょっと驚きました。あの写真に写っている道路のガードレールは、僕が子どものころに覚えている景色とそっくりでした。あの唐沢海岸で地引網を手伝ったり、どぶ川のようなところでオケラを取って遊んだりした思い出があります。

あのガードレールが懐かしくて現在のガードレールを見に行きました。別なガードレールは足されたものの、現存していました。昭和初期の写真にも写っているのですから、で

きてから70年は経っていることになりました。今は不要とも思えるガードレールが残っているのがうれしくなりました。僕の思い出で40年前ですから、もっと古くから覚えていらっしゃる方は多いに決まっています。なんだか、幼いころの原風景なので、大事にしたい気がしましたので、映像を送ることにしました。この風景に思い出がある方がほかにいれば、お話も聞きたいものです。(一部抜粋)



小宮 孝幸さん